

岐蘇林多

目次

◆研究

渡鮮一年有半

◆論説

國防と山林

林友に就て

◆文苑

明るみの世界へ

晩秋の秋別

和歌

◆雑報

學校便り

辯論會便り

會員消息

其他

大正七年一月廿五日發行 第九拾九號 每五廿月一年七正大

研究

渡鮮一年有半

(承前)

坂本光太郎

△新義州より安東縣

新義州は田圃中の新開町であるから舊跡も名所も觀るべきものは一もない、粗末な貧弱極まる日本家屋が七八百戸人口三千(鮮人二千人支那人一千人一位居住して居る。一日小開を得て洋行した、洋行したと言ふと事が大袈裟に聞ゆるが、實は滿州の安東縣に遊んだのである。然し之れでも支那盛京省安東縣と言ふ立派な外國である。此處は鴨綠江を挟んで新義州に對して居る、滿州の關門にして此間には三〇九八呎の長い東洋一の鐵橋が架つて居る。真中を列車が運轉し兩側を人車が通行する様になつて居て、右側は安東行左側は新義州行となつて居て兩端には税關あり哨舎あり其の前には我國の軍人が白晝、着劍にていかめしく歩哨に立つて居る。此橋を通行するに立止りは許さない絶えず軍人が銃を擔つて巡視して居る。朝鮮側から第九節目は開閉式で毎日三四回定時に五百噸の重き梁が四人の手で安々と開かれ舟楫の便に供せられる。

「鴨綠江筏節」

朝鮮と支那と界のアノ鴨綠江ヨイシヨイ架けし鐵橋はコリヤ東洋一十字に開けばアリヤ眞帆片帆にジャンクが亦往き交ふ賑はしさチヨイチ

(定價金參錢)

ヨイト

此れを渡りて右へ折れ行く事數町にして。安東市街である。日の丸の國旗が領事館前に竿頭高く翻つて居る。御國の威光が此處にも輝いて居るのを見て頼母しく思つた。日本人約七千支那人約五萬支那街の不整頓なるに引き替へ、日本街は市區整然として如何にも戰勝國らしい有様を呈して居る。市の西方に鎮江山と稱する小公園あり此處には卅七八年役の戰病死者の納骨塔がある展望佳にして鴨綠江を隔て、前面には遠く朝鮮の白馬山、義州、新義州、九連城等左右十數里を見渡す事が出來近く江岸を見下せば營林廠製材所に相對して此方には採木会社の製材所がある。其處には三百哩の上流より流して來る日本筏支那筏が夥しく着いてゐる。支那筏は主に角材を編み其上に簡單な蒲鉸形の苫屋を葺き旗を立て七八人乗つて居る。日本人は日本式の筏を只一人にて流して來る。凡てが此の通り大和魂一つは支那魂七八つと匹敵するを証明して居る。

「鴨綠江筏節」

あかねさす旗は日の丸筏は丸太流す乗夫はコリヤものよのヨイシヨイ難なく難場をよアリヤ流下してよ明日は新義州に着くばかりチヨチヨイと筏の前にジャンク(支那船)が又夥しい所謂帆檣林立の景、殊に月清き晩は最もよろしく油を流したる如き江面に兩岸の燈火相映

し林立せる帆檣の間へ皎々たる明月が影を落して黄金の波が漂ふ光景は悠揚として平和である。然し十二月初めより翌年三月迄は結氷期であつて、寒暖計が零下三十度を示し肌をつんざく様な寒風が吹き荒ぶ真冬になると此れが氷山と化してしまふのだから如何に寒気が酷烈であるか相像されるであらう、鎮江山を下り支那街を徘徊して歸つた。辨髪を後に垂下したニーヤが往來に難し耳輪をはめた足の小さい崎形兒の様な支那婦人も見受ける。晝間と雖も公然市中に於て種々の賭博が行はれ市中の不潔なる事言語に絶し、到庄鼻を摘まずには通行することが出来ない如何に生活の程度が低く如何に非文明であるかと思ひやられる亡國の徴候は此處にも遺憾なく發露されて居る。やがて江岸へ出た時大きな紅い夕日は今將に西山に没せんとして居た

△出張命令

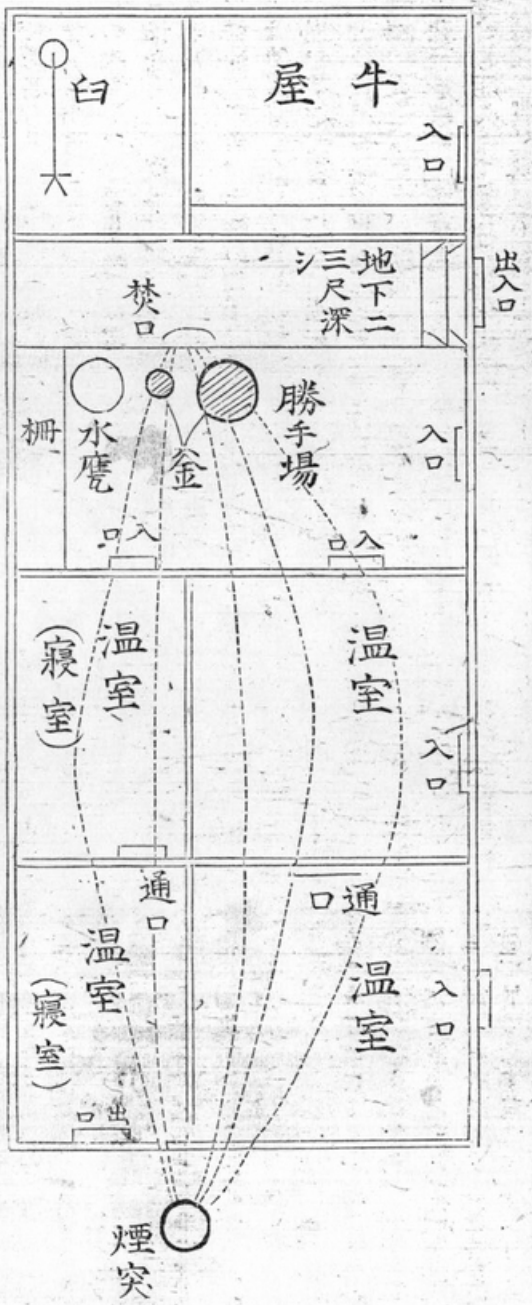
四月二十一日左の通り出張命令を受けた
自四月廿一日至七月三十一日林野區分及施業案調査の爲め平安北道厚昌郡へ出張を命ず大正四年までは四月に出張して十一月歸廠したさうだが七八月頃は朝鮮の雨期であつて、山に居ても調査も出来ず無益に日を費すこと多き故今年よりは出張期間を前期後期に分ち新義州に滞在することになつたさうだ。朝鮮には虎が居ると言ふ事を聞いて居たので一つ見て遣らうと釜山に上陸するから此處に来るまで大きな目玉を見張つ

て来たが、何も見當らなかつた人の話には此度行く山奥には虎が居るなど聞いた時には事情の分らん自分には何だか出張は命懸の様な気がした。内地と事情が異なる通り全し出張と言つても容易でない、第一番に交通の不便なのに骨が折れる公用荷物の外に私用携帶品は次の様な物品を準備しなればならぬ夏の洋服と服帽子シャツ及び手拭、はみがき石鹸等の日用品に襪襪草鞋十足、甲掛七足、手袋五ツ、脚絆、飯盒、ホーク、藥品數種、繻帶、ハガキ、切手、封筒、インク、ナイフ、雜記帳、糸、針、ピストル、ピル、袋(白布にて作りたる長サ六尺幅三尺位の袋にて口は巾着の口の様に紐にてしめ此の中に寝てんで(南金虫)の害を免れるに用ふ)枕袋、水筒、洋傘、腰下、靴、毛布(二枚續き二枚散紙、袋、ベトル、懐中電燈、扇子、髮削、煙草、雜誌等を用意し底一尺五寸乃至二尺四寸大の深さ二尺五寸位のヅツ製(防水布)の信玄袋を作つて此れに右の品を入れて運搬するのだ

△新義州より厚州古邑

出張員の區分は林野區分調査専門三組(一組内地人二人通譯一名)施業案及林野區分調査一組(三班に分れ一班内地人四人通譯一名宛)新義州より新安州迄は演車にて其の夜は其處に一宿して翌日荷物は全部牛馬に托し鉢は約八里を輕鐵蓋貨車の石炭の上に積まれて介川(軍隅里)へ着いた、此處には鐵鐵がある。此夜は幸にして内地人

至一尺五寸位の高さ三四間の空木)より出づる構造である故に二階建の家屋は皆無で入口の戸障子はすべて片扉開きになつて居る。扱て話は構造へ入つたが、前へ戻つて語る事に、空腹で堪らぬがまだ夕飯迄には余程手間取れる様であるから朝鮮蕎麥を食ふこととして持つて來させた。蕎麥といふから内地の蕎麥と考へ咽喉を鳴らして待つて居たが持つて來たのを見れば八角にして一尺程の四本脚の膳に杯洗の二倍大の物に素麵式の朝鮮蕎麥を山高々と盛り上げ其側には薬味として生葱及蕃椒等が並べてあつた蕎麥と思ひきや内地の冷し素麵をつくりで、然も之れを漬物の水で食ふのであるが、總べて物が積んで最初は何も取る氣にもならず空腹をおさへて我慢して居たが、先輩の諸君は頻りに朝鮮に來て此れを味つて見ないなんて話にならむ、然も調査員でありながら……と野次るので負けぬ氣の自分は何處かの食ふ物をと糞我慢して箸を採り上げた途々一碗を平げてしまつた(鮮人の食器は主に眞鍮製である)此



の蕎麥の作り方はトコロテン式に押し出すのである先づ最初蕎麥粉或は馬鈴薯の粉を練つて、大きな玉を作り次圖の如き装置にて下にある釜の中へ押し出しゆだらしたる頃を見計り取り上げて水に冷すのである。即ちA部に於て粉を練つた玉を入れRの部を仰へる時はOの部に壓せられてDの部に張りあるブリキ板の穴を通して釜の中へ押し出されるのである。扱て其夜はビンデ袋に

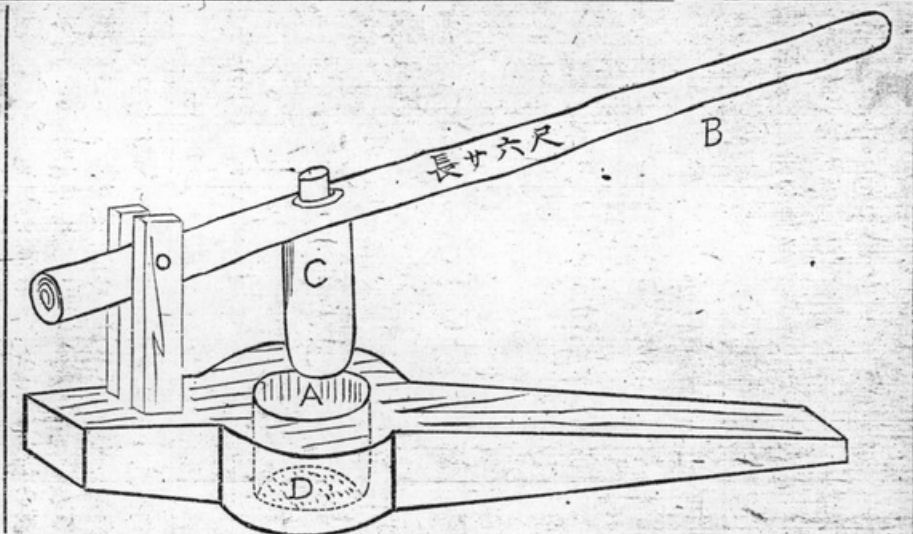
這入り毛布にくるまつて一夜の夢を結んだが此處に苦痛を感じるは言葉の通はぬことであるヨボと言ふ朝鮮語より外に知らぬ私を持つて來いとか、飯を持つて來いとか、と言ふ些細な事迄も一々通譯の口を煩はさなければならぬ、迂遠な對話は吾輩如き性急漢をして如何に口もどかしくおもしろいものであらうか……

そこで朝鮮話の必要を切に感じ朝鮮に住む限りは多少なりとも言葉が解けないと不自由であると思ひ毎日通譯に就いて一二言づ練習する事にして最初にモヨ(何)といふ一語を覺れた途中で行き逢ふヨボを捕へて何物かを指してヨボモヨと聞いて見る。そうするとヨボは何事か答へるのであるが少しも解らないが解つた様な顔してウムウムと肯いて居た次ぎにはヨボオデカツスムニカ(オイ何處へ行きますか)を覺る前同様の練習を試みてタンシンチビチデイツソウリチビヨギナオブソチヨギイッソも數日の後には解し得るやうになつた

の家屋に宿る事が出来たが、明日からいよ一日平均八里行程にてヨボチビに宿らねばならぬが……と他人は愚痴をこぼしたが自分は好奇心に驅られ早くヨボチビに宿りて其事情を探り度い様な気がして眠りに就いた
翌日は徒歩にて新與里へ夕方御腹ペコで着き初めてヨボチビに這入つて見た。四圍の壁も天井も燕の巢の様に塗り續けてあり温土爐の上に穢いアンペラが敷いてある足を洗ふ水を持つて來る様に命ずると、木をくつて作つたものに水を汲んで來た。これが夕飯の時には植の代用ともなり朝は洗面器の役も務める朝鮮は凡てが此の式で輕便に出來てゐる。大体ヨボは穢いと云ふ觀念は少しもない全々穢いことを知らんらしい、豚小屋の様な處に住つて犬や猫よりも劣つた生活をして居る。序に此處に話をするが勝手場には塗タ付けにした大きな釜が二つ三つある。而して流しが無い水を使ふには木をくつた大きなのに水を汲み出して温土爐の上にて使ふのであるから釜の邊が泥となる、釜の蓋の上にはよく草鞋が上つて居る事もある。又飯を焚く釜の上に跨つて髪を洗ふものを見受けた。又洗濯物は總て此の釜で煮て然る後頭工に載せて河邊に運び石の上にて長さ一尺程の棒にて打つのである此れが朝鮮の洗濯法である。そして次の圖に示す様に此釜の下で焚いた火氣が各部屋の下を通じ最後に煙突(直徑一尺乃

馬の外に驢馬の使用が多い。人員は馬夫まで加算して三十人余が馬賊の一小隊でも通行する如き有様で、ヨボ共は驚いて見て居た宿へ着くと丁度内地の田舎へ西洋人が来た時の様にヨボ共は物珍らしげに寄り集る馬夫は荷物を取片付ける自分は御手自ら出刃を取つて雞の料理に取りかゝると云ふ一大混雑をする。一週間の後には江界邑内へ着いた。周圍には廓を造らし入口には玄武内と云ふ額を揚げた大きな古い支那風の門があつた。日清役に勇名を轟かした彼の原田重吉氏を想像しながら此門をくゞつた。四月十日といふ花の吹雪が起る頃此處では雪に降られて一日滞在した。江界は郡廳所在地にして内地人旅館が二軒、雜貨屋が三軒此處で米、味噌、醬油、干魚、大根の切干、素麵、混布、蘇玉、砂糖、メッケン粉、茶の如き食料品及釜、鍋、茶碗、箸、杓子、飯杓子の如き食器は云ふに及ばず、出刃庖丁から薄刃庖丁、五徳、火箸、ザル、洗面器、箒、妻揚子、下駄、蚤取粉、南京錠、針、金槌、燐寸、提灯に至るまで要務地滞在中に必要な物品は凡て買ひ求め區分調査の二組と分れ、此れ等の荷物も駄馬六七頭に脊負はせ途中は水筒の水と仁丹より外に口にするものはない、鳥居峠位の峠を過ぎ

育ち學校へ行くでなし、實に朝鮮の田舎に育つ子供等は不憫である日本語よりは朝鮮語の方が上手で困ると女將がこぼして居た此處でサイダーを飲んで一本が三十五錢と



醫と自分等の宿つた小さな雜貨店兼夜夫宿が一軒あるばかり日本服の子供が二三人淋し相に遊んで居た。此等の見供こそ可愛想なもので内地の様子も知らずヨボ共の間に

か四十錢をか閉いて、目玉を丸くして居た連中もあつた總て物貨は此通りである。此日林友誌其他二三の友人よりの信書を手にしたが未曾に在る君よりの手紙には故山の櫻花が封入されてあつた。しばし此の花を眺めて内地の春を思ひ浮べ亦學校に通つて居た頃を追想して見たが自分は今無花の北鮮にあり五月の半を過んどして居るのにまだ谷間には氷の山がある。此の深山では如何ともなす能はずせめて此花でも眺めんと日記帳に張りつけてあきらめて居た。翌日は小窪信洞に引き越して此處に二週間の根據を定め附近の森林調査并に林野區分調査に着手した (未完)

國防と山林 (下)

大坪時治

余や今學窓にある身素より秃筆寡聞無能云ふに足らざるの徒輩なり然れ共余の及ぶ範圍に於て既に國家の危機累卵の危きに比せるを説き并せて國民の覺悟を促せり。茲に於て餘す處は向後如何にせば國家をして泰山の安きに置き得べきかを説けば余の望は達し得べきなり。抑々國家なるもの繁榮をばかり國際上優秀の地位を望まんと欲せば軍備の擴張と國力の充實とに努力せざるべからず。世人多くは軍備の擴張を以てミッタリズム或は獨逸主義となす者あり是實に謬見も甚だしと云ふべきなり普國將軍ガイマン言はずや「一國が好んで衰滅を招かんとするに

非ざる限り、軍備の程度は人々の増加と福祉の増加に伴はざる可らず」と。即ち一國の盛衰は常に軍備の程度如何に懸るものなり

是を以て是を考察すれば苟くも國家の存立を鞏固にし且つ隆昌ならしめんと欲せば常に軍備の充實をはからざるべからず。さるに我が帝國の今昔を考ふるに日清の小勝には自信力なき國民性の覺醒を促したるも日露の役には露國の東漸政策に僅の一撃を加へたるを以て千載の快事とし自信力は變化して天狗心となり果ては戦勝の毒酒に陶然となり目前に迫る國家の危急を知らずいたづらに醉生夢死擲單の間に浮沈して蟬蛻の如き一生を送り苟且偷安一時の安逸を貪り善良無智なる衆民に諂ひては只其の負擔の軽減を云爲して是が甘心をもとめ機會に乗じては己が一代の榮達をはかり却つて奢侈淫逸の弊風を助長せんとする徒輩は天下を横行すれどあたは憂國の士は影を潜めんとしつゝあり

嗚呼、何たる咄々怪事ぞ時勢は暗黙の中に推移し帝國の國權をも危くせんとしつゝある現時に於て帝國の軍備擴張が何すれぞ獨逸主義なりや何すれぞミッタリズムなるか帝國は明治四十三年八月二十三日一四、一三〇〇方哩と一〇、二四〇、六七六の人口を増加せしのみならず支那及び南洋に伸張せる國權の勢力幾干を加へたる思へば十年を一期とする帝國の進歩發展は實に大なる

りと云ふべし而して米國の軍備擴張が唯目前の目的のみに非ず暗に將來を意味するに於て帝國が軍備擴張をなす何の不思議かあらん此の時に當り徒に猶豫逡巡し姑息因循の間に日を過ごさんか遂には藩戸を網羅するの暇なく大事變の勃發すべきは蓋杞憂に非ざるなり然りと雖も軍備の擴張は徒手空拳にして出來得べきに非ず要はマナーの問題なり

帝國が東亞の一角に立ち一個の獨立國として一國の体面を支持するの財源は勿論これあらむも現時の如く列強擧つて軍備の擴張に腐心し是が競争に没々たる者に對していかでか拮抗し得べき假令一定の財源ありと雖も又國には一定の消費あり決して國庫の全部を盡して軍備の擴張に供すべからず即ち種々の施設に按分配合すべきは論を俟たざる處にして當局たるものも必ず軍備の爲に相當の準備をなすつゝあらん然りと雖も如何せん世界の進歩は益々軍事費の膨脹を來たし到底其の満足を充す事を得ざるのみならず殊に我が國の如きは後進國の常として遙かに軍事費の大を要し且つ歐洲先進國に比し國民に對する税率低き有様にして實に國家の前途憂ふるに堪へたり

故に唯租税の收斂のみを以て國庫收入の資源となさず他の方法により生産的もしくは自然的に國庫の膨脹をはからざるべからず余輩が山林を論ずる所以實に茲にあるなり聊か余の懷抱を語らん

然かして之を説くに先立ち森林が國家に及ぼす効用を陳べざるべからず即ち之を叙すれば其中瞭然として山林が國防の源泉をなす事を知り得ればなり、今之を別かちて二とす

- 一、森林直接の効用
- 二、森林間接の効用

一、森林直接の効用 森林直接の効用は林産貨物の効用即ち是なり現今日本の山林原野面積は凡二千三百八十四萬九千六百町歩(農地の約四倍)を占め此の内六割は維新の際亂伐せる結果荒廢地となれり是余が痛嘆に堪へざる處なり即ち國家が利用し得べき土地をあたら廢地として是が利用の方法をも講せず放任するが如きは實に國家として不經濟極まれりと云ふべきなり 今我が國林業地一二の收利額を示さんに望月博士の調査に依る吉野杉の百三十年を輪伐期とする一町歩の純益を見るに三千八百八十二圓(農業收利額の七倍)又四十五年を伐期とする原林學士の四谷九太杉林の收利表を見るに一町歩當り一千七百九十圓の純益あり 扱て茲に一千萬町歩の廣野を所有し之が利用の方法を講せずあたは四十五年間放任するとせば國家の損失幾何ぞや今前述の如く一町歩には千七百九十圓の利益あるものとし之に造林を施し四十五年を経過したる後伐木を施したりとせば壹千萬町歩より上げ得べき收入利益如何實に一七九億圓の巨額

に及び更に吉野杉の百三十年輪伐収益に換算せんが三八億圓の驚くべき額に上るべし

を荒廢に歸せしめたり 見よ其が亂伐の餘殃は觀面今日の結果をば

茲に完全の軍備は擴張せられ國民は始めて枕を高くして安眠するを得べし然るに此の用意なくいたすに姑息の手段に甘んずる

林友に就ての卑見

M. K. 生

林友に付て、聊か卑見を述べて見たいと思ひます。

固にせられん事を促した事もありました。而しながら自分は今日卒業生となつて見ま

らす知らず林業思想を人々の頭に吹込む事も出来る、斯様に林友をして趣味あらしめ

費徴収を怠らぬ事に留意し未納者には納金をすまで、毎月なり催促する様にしたらなら

文 明るみの世界へ

光 月

藍色にすみきつておる大空から夕陽は力なげに狐色せる草原の真中に低く立つておる

暗いので人の顔すら判明しないけれども、吾と彼とより二人しか居らぬ此の草原の中に、

かう信じてゐる信行は重い口を開いた。 信行。人間と云ふものはどう考へなをして も若い中に勉強しなくてはならない苗 の内に受けたインフルエンスは丁度幼 木に印した斑が木の育つに従つて大き くなる様なものだ。 私共が last safety の位置をそれほどでな く自己としての生存をどう得る Standi ng Place を得るにはどうしてもアドレ ツセンスの内に即ち活氣充滿せる學生 の内に勉強の根底をつくつておかねば ならん要するに私共は若い内に自己發 揮の基礎を十分修養しておきたい、天 分の多少などは問ふ處でない、馬車馬 的に勉學努力精進したい、其後始めて 自己の天分を知る事が出来るのである 弘造。年をとつてはいけませんか？

◎信行いかにも歎息に。 信行。あゝ年をとつてはだめだ。 私は恐怖に出會すれば出會する程、苦 しめば苦しむ程、世の中が益もしくろく なる。けれども来る日も又来る日も皆 束縛の日なのであるそして更に苦しい 飢とせめと誘惑の未だ嘗て試みなかつ た苦しみが襲つてくるのである…… だから吾々の生活はいつのまにか美し い學窓時代の心から離れてあらしに吹

きまぐられた荒野の様に、すさんでゆ くののだ。 弘造。なせ年が更けますとなやみの時が多 くなるのでしよう。 信行。社會の激浪と戈を交へるから。何事 にも自由の新天地を開拓する事が出来 るから。 否否自己自身の心に空虚があ るからだ。 ◎信行は力なげに更に語をつづけた。 信行。私共は唯今日は今日で安息なれ、そ して又來る明日も苦しみ魔の手の來ぬ 様恐怖のなき様と訴るのみである。 弘造君私は眞に勉めたいた昔の様に萬事 に耐へしので man may do what man has done. あゝされどそれには争闘の中に幾多の いたましい血の出る様な犠牲を拂はな ければならぬ。

◎信行はうれひの色を顔に漂はせておる晴れた 大空にむら雲が瀾漫した様、そしてそれを拂ひ 去らうとする春風の機おたやかに断へず希つ てゐる様に見ゆる。 信行。私はエゴイズムにとらはるゝ事は好 まない、出來る丈多くの人と幸福を分 ちたい、愛の輝きに満たしたひ。そし てすべての人をして吾れは人も吾も萬 物の靈長なりとの嚴として犯す事の出 來ぬ力を持たしたい。 短かき秋の日は草野を「べ」の様赤々と染 めて沈んだ無限の力を含んで。 鳥も瞬にかへり夜はすべての物を包んで沈

静寂極まれば則ち死である。 死は永久に互りて沈黙にある永遠の大きな 開く事の出事の扉ではないか。 死は人生の最後を裝ふ崇嚴な神聖なそして 絶對的な唯一の神祕物ではないか。 我等人は働かんために生まれたのではない か、労働は人の根本のエネルギである、

點に落ち入つてゐる。 おゝさね行く紫紺色の夕空よ。 二人は足音も立てない。附近は静かである 否むしろ死人の様に冷かである、人を壓す 様な自然の力は静謐の音律を震はせてゐ る。 弘造。自然は吾等に何物かの偉大なるヒン トを與へてゐる様ではありませんか おゝなんと云ふイシスビレイションの 晩なんでしょう。

◎信行はしばらくして一人にて唱ふ静かな美しい 聲で。 信行。東を向いて叫んでも西を向いて呼ば つても答ふるものはない様な神祕的な 晩は人の力では支配する事の出來ぬク リエーターがきつと萬物の眠りに入つ ておるのを守つてゐるにちがひない。 汝等天よりヤリを讚美せよ。 汝等高き處にて彼を讚美せよ。 汝等彼を讚美せよ凡てその天使等。 汝等彼を讚美せよ日、月。 汝等彼を讚美せよすべて光る星。

何をめざすや？ 東より西へ廣き大空を亦 一日旅していま沈む太陽の方へ飛び ゆく鳥よ！ 静けきやすらひの床を得んがために か。 或は又仲間の群れに入らむがためな るか？ 汝がゆくはろけき彼方―― あゝ小鳥よ汝がゆくはろけき 彼方……それはわが憂愁の 基にして又わがたましひの憩ひの島 なり。

人に労働がなければ其の人は空である死で ある。吾々人生労働の目的はいかなる處に 存するや。吾々は明日のパンを得んがため に働くのか？明日の労働はパンの準備か？ 私たちは自分のまづしさを訴へるけれども 自分等より更に貧しい生活を忍んでゐる人 の多い事を忘れる。 吾々私と彼との間には非常に厚い壁を作 つてゐる。吾は吾である。吾自身の肉体を 一歩たりとも外に出づれば則ち彼である。 吾は吾の本能を充せば満足だ、友を愛する には及ばぬ、まして世の中の人を愛する事 はしなくともよい。

けれどもクリストは嘗て彼れがパンを持た ない事を世に訴へた事があつたか。 信行。人は宗教よりもイズムよりもアード よりも超越してゐる、そして人の内最 も大なるものは吾である。 弘造君、私自身、私の心を知つたなら どのに幸でしょう。

私はアポロに愛せられんがため自己の 修養をつんで人生の目的に向つて働き ませう。そしてたゞここに不盡のパラ ダイスが得らるゝ事と思はれる。 深山木繁げる樹立の若葉をゆり動かし て銀色をおんでぼつ／＼とおちる小 さなる露もやがては千波万波立騒ぐ大海 となりませう。 至誠神の如しと云ふプロバブがあり ませう。何事も連続して倦まず怠ら

すやつたならば必ず美しい愛の高潮に 達せられるのである。さらば弘造さん。 あなたは學びの路に私は労働の道に共 に自然の規に従つて足音高く進みまし ょう眞面目に……そしてたら希望の 光は生れるであらう。

◎信行はうれひの色を顔に漂はせておる晴れた 大空にむら雲が瀾漫した様、そしてそれを拂ひ 去らうとする春風の機おたやかに断へず希つ てゐる様に見ゆる。 吾々が眞面目のとき始めて清い意義あ る労働が生まれるでしょう 吾々は労働と争闘と勉學を繰返して愉 快に今日を送り楽しく明日を迎へまし ょう 苦しきなやみともたわは秋風の如く やがて襲ひ來るべし、我心へ。 その時吾が心清く鏡の如くすみ 動かぬ星の如く静かならば。 いかにか我はよろこばん永久に亘りて いかにか我はたのしまん現世を終る迄 信行。そこに云ふにははれぬ人生の妙味が ある。

中庸の最初に 天命之謂性。率性之謂 道修道之謂教。とありませう 弘造君さらば永劫に幸あるべく共に唱 へませう。 草 城 いくこへゆくや？静けき入江の水に 影をうつして飛びゆく鳥よ。 日暮れ迫れるに心ろせければか とびゆく汝の翼しきりに はたらける見ゆ……

折しも蒼穹には点星は銀色に月光は白色に 皎々と冴わて草叢を照し白露繁き千草の中 には蟋蟀が自由な平和なメローを奏でゝあ る。 更ける！更ける！ 久遠の夜は崇高莊嚴 に、そして敬虔森嚴の二つの靈は斷われない 精聲を發する。(大正六年十月十日稿)

和歌

安井正夫

舊十二月末藤田稅務署長の越後村上稅務署長に榮 轉され全月廿九日夜見晴にて送別會あり席上詠み 送りける。 勅題 海邊 松 のぞかなる葉山の海にかげみわて冬としも なき松のいろかな

七十の歳を迎へて たどり着て七十の坂にかゝりけりされどた ゆまぬわがこころ哉

學校便り

終業式 十二月二十一日校内大掃除後講堂に於て終業式舉行、北村教頭より訓辭あり

辯論會便り

空には凍雲漫々たり地には白雪皚々たり満目蕭條として淋しく暮れゆく師走の二十一日我が校友會は例によりて忘年會を兼ね大正六年棹尾の辯論會を催せり

○不言は護身のビストル也 水口 久君 冒頭先づ「物言へば唇寒し秋の風の句を提唱し多辯の害を説く所、簡にして要を得、真摯の態度にて論じ去る邊、初陣としては敬服々々

○正直及び共同 小松義三君 満面に愛嬌を湛へて登壇、悠揚なる態度、豊富な聲量にて卑近年ら婉曲なる譬喩を引きて説破せり

○青年の學問 吉田正男君 態度悠然、頗るよし只惜むらくは音吐低調活氣不振の爲満場の注意を散せしめし事也

○旅は道伴、世は情 藤澤甲子十君 眞面目なるはうれし唯君も場馴れざるやの憾あり奮勵を祈る

○世の境 遠山 虎雄君 一個の饑頭も其表皮はメリケン粉にて即ち米國産、「あん」の赤豆は支那産、砂糖は臺灣産にて世界的也、されば人間も須らく世界的ならざるべからずと云ふ演説は去るにはイカな野次も入る能はざりき

て沈黙せしむるに足ると雖も徒らに聴者の苦心を買はんとして好奇心に驅られしは深く惜むべし

謹賀新年

大正七年正月 木曾山林學校 同 校友會 學校及び校友會宛年賀狀を辱うしたる諸彦の芳名を左に記し茲に謝意を表す

内山伊那登氏、野知里慶助氏、黒岩正平君、佐塚甲子氏、厚澤氏、伊藤芳郎氏、山梨縣蘇峽會、等々力與八氏、佐藤一郎氏、森三次氏、皆川秀雄氏、二木季人氏、關谷静夫氏、柳澤衛氏、安藤晃氏、高野金作氏、岩田元吉氏、日野雅亮氏、加茂憲太郎氏、上條嘉一郎氏、星加正雄氏、平田久良治氏、倉澤健雄氏、原惠治氏、今井安男氏、不鬼修六氏、古山五八氏、原正造氏、福澤定雄氏、藤原幾喜氏、平田美則氏、田中榮一氏、近森良材氏、澤田富可氏、石曾根四郎氏、澤柳壽夫氏、代田文之助氏、坪倉藤三郎氏、赤羽三郎氏、輪湖正由氏、富土川鏡一氏、岡戸廣治氏、奥村和吉氏、温井誠一氏、松島周一氏、種倉隨藏氏、原田久保作氏、國原吹也氏、横井正守氏、松澤莊太郎氏、志津幸祐氏、山崎兵平氏、篠原爲一氏、伊藤喜代氏、池田仲治氏、松上三郎氏、小崎次郎氏、山下不二三氏、丸山嘉一郎氏、福田友次郎氏、大城朝詮殿、榊原武重氏、直井

會員消息

瀧美雄君、蠶業取締所、木戸金市君、河合勲次君、宮森太一郎君、久保田傳一郎君、本多清右衛門君、大場慎六殿、松本高等女學校

訂正

前號會員名簿中第十一回卒業生二名誤脱其他誤謬有之候に付左に補正致置候 廣島縣山形郡河内村 不 免 修 六 千葉縣久留里小林區署 澤 柳 壽 夫 誤

第二回 材本貢 杉本貢

利雄氏、岩久宗治氏、征矢野餘所夫氏、木村康明氏、奥村利一氏、白木老雄氏、市川豊二氏、徳武國久氏、山崎三男氏、兒野榮氏、小林哲三氏、林與五郎氏、向井惟農氏、上田彌太郎氏、蜂須賀宮次郎氏、丹澤潔氏、藤卷壽一氏、水口久氏、嶽野利雄氏、梶田實治氏、藏尾眞氏、長谷川義雄氏、成瀬義郎氏、福澤定雄氏、古根勲氏、坂田勲太郎氏、小林英一郎氏、古畑七三氏、原川只一氏、市岡新八氏、長崎千萬一氏、永井順氏、唐澤繁夫氏、原七郎氏、小谷益實氏、仲俣伍市氏、細江七兵衛氏、鶴飼政義氏、稻葉増吉氏、塚田大氏、菊地貞次氏、宮崎惠喜太氏、山村次一氏、小羽根安次氏、千村善藏氏、宮澤清輔氏、宮島岩見氏、野本與一氏、横山治人氏、多田慶次郎氏、伊藤俊夫氏、岩井洋治氏、大久保猪三郎氏、宇佐美周紫氏、林重郎殿、樋口勲氏、林勲治氏、川合清行氏、小松良輔氏、白井辰雄氏、小澤安親氏、高柴眞次郎氏、柳澤邦信氏、宮澤嘉一氏、高峰傳治氏、糸魚川良二氏、池野萬次郎氏、由尾忠助氏、松澤敏男氏、中村豊治氏、齋藤正雄氏、石坂季治氏、平田稻男氏、等々方官一氏、島田雄太郎氏、肥後金四郎氏、吉澤英雄氏、伊藤兵太氏、小松六三郎氏、各務傳六氏、下平佐門氏、曾我義郎氏、前田正義氏、大澤國男氏、佐藤光造氏、中田穂氏、池口福雄氏、大洞盛一氏、中川源太氏、長谷部兵治氏、吉村金次郎氏、千村重喜氏、松本清太氏、家高甚一氏、小岩井茂樹氏、奥原吉右衛門氏、米山芳郎氏、千村萬三氏、樋口徳一氏、加藤源一郎氏、田澤秋藏氏、伊東厚氏、古根是氏、原貴一氏、塚本三樹氏、中畑佐耕氏、安江悦次郎氏、丸山久雄氏、上條芳雄氏、眞見勲氏、加藤正次氏、飯沼要人氏、木村晋次郎氏、中田辰雄氏、瀨在實氏、木下神藏氏、原喜四三氏、杉本貢氏、宮崎一朗氏、松島長二氏、關琴義氏、小藤作四郎氏、梅村計介氏、北川信美氏、岡田孫兵衛氏、柘植五郎氏、水上壯三氏、藏田毅郎氏、伊藤善藏氏、久保田吾良氏、山

下藤一氏、甲田林氏、野村光智氏、藤枝茂氏、丸山岩吉氏、松川久吉氏、金田美行君、南勝右衛門君、大島角藏君、岡西猛君、木村鐵次郎君、安藤時雄君、河島憲一君、仲田惠令君、矢島武六君、佐々木久一君、鹽川金次君、遠藤宗作君、箕部覺明君、村上安太郎君、長谷部眞一君、小林秀一君、原田義治君、小原静雄君、長谷部久雄君、小池新伍君、竹内房太郎君、原治二君、松島九平君、和田宗吉氏、河野長六殿、梅田吉郎君、遠藤治一郎君、村松一清君、米久保春雄君、山本茂君、矢島勲二君、後藤豊治君、伊深幾太郎君、田中吟重君、今井眞二君、辻敬二君、金井澄水君、小池金三郎君、古澤久治君、加藤清一君、大森久治君、恩田司馬之助君、宮川昌平君、市岡淳一郎君、渡邊知則君、原恒氏、中島要人君、藤田要吾君、米山修君、倉科浦一郎君、小橋要明君、福山也殿、長田克己君、立道乙松君、森下義郎君、鹽澤英一君、鷲澤忠一君、田中泰吉君、赤羽高君、花村準則君、小田實君、月田喜代佐君、中村五郎君

